

TOYONAKA
ARTS TRIBE #4

TRANCE MUSIC FESTIVAL 2021→2022 -SENSATIONS-

延期公演

トヨナカ アーツ トライブ #4 トランス ミュージック フェスティバル 2021→2022 - センセーションズ -

ピアノと打楽器、そして電子音響がすべてを包み込む。
ユニークかつ必聴プログラムが唯一無二の空間を創り出す。
身体器官の感覚が呼応する。これが音楽を体験すること。

開催趣旨

豊中市立文化芸術センターでは、2019年より「今を生きるアーティストとともに新しい芸術体験を創り出す」挑戦的シリーズ〈TRANCE MUSIC FESTIVAL〉を開始した。これまで、現代作曲家プロデュースによるガムラン公演や、舞台と客席が一体化した空間で声を中心としたパフォーマンス、そして、通常のリサイタルとは一線を画した演出を行う現代音楽公演を行ってきた。2021年は、4つの公演を3か月にわたって実施する〈TRANCE MUSIC FESTIVAL 2021-SENSATIONS-〉を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、1月に予定していた公演を1年後の**2022年1月21日（金）**に延期が決定した。

上演する作品は、リュック・フェラーリの〈Cellule 75〉やヤコブ TVの〈The Body of Your Dreams〉といった生の演奏と電子音響によって生み出されるグルーブを楽しむ作品や、ピアノと打楽器のアンサンブルを中心としている。出演は、ピアニストの中川賢一とマリimba・打楽器奏者の宮本妥子に、今回延期となった事で出演が可能となったエレクトロニクスの有馬純寿が加わる。この3人は、同シリーズで実施したシュトックハウゼンの伝説的名作〈KONTAKTE〉の演奏を行っており、今回の公演への期待も大いに高まる。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活や社会を大きく変えた。それは、アートにおいても同様であり、特にライブの体験を前提としたパフォーマンスは、その存在価値すらを問われている状況である。しかし、このような状況だからこそ、今まで以上に音の圧やアーティストの渾身のパフォーマンスが、身体に感覚にダイレクトに届く表現の真髄、それらを体感する時間・空間が必要とされているのではないかと。

アートの本質が、あらゆる視点から固定化されてしまう危機すら感じざるを得ない現代、体感すべき音楽体験とは何か? その1つのアンサーとして結実された企画である。

開催情報



トヨナカ アーツライブ #4 トランス ミュージック フェスティバル 2021→2022 ー センセーションズ ー

TRANCE MUSIC FESTIVAL 2021→2022 -SENSATIONS-
ピアノとパーカッションのTRANCE - in Search Of the Lost ()-

開催日時 | 2022年**1月21日(金) 19:00開演**(18:30 開場)
会場 | 豊中市立文化芸術センター 小ホール
出演 | 中川賢一 (ピアノ)
宮本妥子 (パーカッション)
有馬純寿 (エレクトロニクス)



1. 中川賢一 & 有馬純寿 & 宮本妥子
Photo: Hiroyuki Matsukage

主催 | 豊中市市民ホール等指定管理者
助成 | **NOMURA 野村財団**

チケット | 全席自由 一般 2,000円 / club CaT 1,800円 / 学生 1,500円

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※障害者割引あり。障害者とその介助者(1名まで) 2割引。
(豊中市立文化芸術センター・ローズ文化ホールのみ取扱)
※小ホール車いす席は、文化芸術センターチケットオフィス窓口・電話のみ取扱。

発売日 | club CaT先行販売期間 2021.10/8 (金) - 10/14 (木)
一般発売日 2021. 10/15 (金) -

販売場所 | 豊中市立文化芸術センター チケットオフィス 06-6864-5000 (10:00~19:00月曜・年末年始休館)
オンラインチケット <http://www.toyonaka-hall.jp/ticket/>
豊中市立ローズ文化ホール窓口 (火曜・年末年始休館)
ローソンチケット <http://l-tike.com> 【Lコード: 54670】

企画コンセプト

はじめに

本事業が立ち上がった2018年。様々な文化や価値観があふれ、多様な文化芸術の保護及び発展を図っていく事がより求められていた。また、世界的なムーブメントとなった#MeToo運動など、もともとあった社会構造そのものを変革する動きも大きくなり、それはアートの世界にも波及している。記憶に新しいところでは「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」。ネガティブな報道や結果が目に行きがちではあるが、参加アーティストの男女比を1:1にしたことなど、日本におけるアートシーンに大きな影響を今後も与えていくのではないかと思わせる歴史的なイベントとなったことは間違いないであろう。

豊中市立文化芸術センターは、2017年1月にグランドオープンを迎えた新しいホールである。当初は、指定管理者としてホール運営に入っていた日本センチュリー交響楽団によるオーケストラ公演などクラシック公演を中心とした事業を実施してきた。が、全国の公共ホール同様に現代音楽や現代アートといわれるカテゴリーに属する事業はあまり実施してきていない。そこで、新たなブランディングを立ち上げるため、音楽分野においてクラシック音楽というカテゴリーに固執するのではなく、これまでになかった表現、芸術的価値を提供している現代を生きる作曲家、アーティストの作品を取り上げ、共に制作し紹介する事で、新たな文化・芸術的視点を広げる事を目的としたシリーズを2019年3月よりスタート。アーティストたちが活躍でき、彼らの自主性、創造性が十分に尊重され、さらには能力を存分に発揮できる場を提供するために継続していく事業を開始した。

前回と前々回では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、延期や規模の縮小などをしながら実施を重ねてきた。今回、小ホールで上演する公演もまた、TRANCE MUSIC FESTIVAL 2020、2021でつづけて延期となったものである。

プログラムは、TRANCE MUSIC FESTIVAL 2021で上演予定だったものをベースに、会場を小ホールにかえ、シューボックス型の会場がピアノと打楽器と電子音響で満ち、エモーショナルなグルーブが生まれることだろう。

アーティストたちが活躍できる場を豊中市立文化芸術センターに作りだし、さらに今まで知らなかったアートを探求できる市民・聴衆を育てていく事で、様々なアートを楽しむ環境づくりを一つの使命として取り組む。豊中市立文化芸術センターの挑戦的プログラムシリーズにご期待いただきたい。

TRANCE MUSIC FESTIVAL とは

2019年3月1日に始動したノーボーダーの音楽イベント。通常のいわゆるクラシックコンサートからは距離を取り、空間全体を音楽と共にコンポジットし、その時間でしか体験できない空間をつくりだす。全体テーマを「TRANCE」とし、古来より人々の生活に密着してきた音楽を、この「TRANCE」というフィルターを通して本質に探ることを目的としている。TRANCE MUSIC FESTIVAL 2019では、「クラブミュージック」「現代音楽とダンス」「ガムラン」の3公演を実施した。TRANCE MUSIC FESTIVAL 2020は、新型コロナウイルスの影響で全公演キャンセルとなり、翌年度実施した2021でも一部の公演が延期となった。

コンセプトテーマ

SENSATIONS

「世間が興奮し多大な関心を引き起こす/身体器官の感覚」という意味を持つ「**SENSATIONS (センセーションズ)**」。この言葉がもつ複数の意味すべてが、まさしく TRANCE MUSIC FESTIVAL で体感する音楽体験を表している。

SENSATION

- 【名】1. 感覚、知覚 2. 気持ち、感じ 3. 興奮、感動、
4. センセーション（を起こすもの）、世間を沸かせるもの

公演プログラム

小ホール

2022

1.21 FRI 開場18:30/開演19:00

ピアノとパーカッションのTRANCE「in search of the Lost ()」

ピアノとパーカッション、それに加わる電子音の共演。音が支配するトランスの世界。ピアノの繊細な音から爆裂するかの如くパワーをもった音。パーカッションの芯から震えるような音と叫び。失われた()を求めて、小ホールにつくりだす唯一無二の空間を旅する公演。ひとつのテーマを基に選ばれた作品を、ただ羅列して上演するのではなく、ホールの中に一つの世界観をつくりだし、リサイタルとは一味違ったグルーブを生み出し、オーディエンスを空間に没入させることで、より作品世界へと誘う。

注目は、フランスの電子音楽で知られる作曲家で、世界中で多くのファンを持つリュック・フェラーリの《Cellule 75》。ミニマルミュージックの要素とフリージャズスタイルのようなパートが聴衆と、そしてパフォーマーをトランスへと誘う。その他、パーカッションの傑作《マトルズダンス》や、カーゲルの一度聴いたら忘れることのできない《MM51》を演奏予定。



2. 中川賢一 ©Shuhei NEZU



3. 宮本 妥子



4. 有馬純寿 撮影：松陰浩之

【出演】中川賢一（ピアノ）、宮本妥子（パーカッション）、有馬純寿（エレクトロニクス）

【プログラム】

L.フェラーリ：Cellule 75

ヤコブTV：The Body of your dreams、J.ササス：マトルズダンス

P.シェフェール：Bilude、M.カーゲル：MM51

※作品は予告なく変更になる場合がございます。

アーティスト紹介

中川賢一

桐朋学園音楽学部ピアノ専攻卒業。同時に指揮も学ぶ。卒業後渡欧し、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科を首席修了。在学中にフォルテピアノ、チェンバロも習得。1997年オランダのガウデアム国際現代音楽コンクール第3位。ヨーロッパ国内外の様々な音楽祭に出演、日本ではサントリー・サマーフェスティバル、東京の夏音楽祭、武生国際音楽祭、仙台クラシックフェスティバルに度々参加。NHK-FM、NHK-BS、NHKクラシック倶楽部などに多数出演、新作初演も多い。ダンスと音楽など他分野とのコラボレーションを行う他、「Just Composed in Yokohama 2003」、「超難解音楽祭」（仙台）音楽監督・プロデュースなども行った。ピアノ演奏とトークを交えたアナリゼ等を展開。クラヴンフォルムウィーン、ムジークファブリック、アンサンブルルルル、アルテルエゴなどを指揮、アルディティカルテットやバーバラ・ハンニガン、イェルン・ベルワルツ等と共演する他、アンサンブル・モデルンとのコラボレーションは話題を呼んだ。メシアンピアノ曲全曲演奏、ケージ「ソナタとインターリュード」、ジェフスキー「不屈の民変奏曲」、リュック・フェラーリピアノ作品集演奏会、武満徹ピアノ曲全曲等数多くを演奏し、各方面から好評を博す。東京室内歌劇場、東京フィル、仙台フィル、広響他と指揮で共演。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」のピアニスト、指揮者。お茶の水女子大学、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。

公式ホームページ <http://www.nakagawakenichi.jp>

宮本妥子

クラシック、現代音楽の領域にとどまらず、コンテンポラリーダンス、邦楽器、など他の芸術との融合を展開し、独創的な世界観を生み出し続ける。同志社女子大学学芸学部音楽学科打楽器専攻卒業、ならびに同大学音楽学会《頌啓会》特別専修課程修了。ドイツ国立フライブルク音楽大学大学院を経てソリスト科を首席最優秀にて修了。ドイツ国家演奏家資格(konzertexamen)首席取得。数々の国際コンクールで入賞、優勝。滋賀県文化奨励賞、2001年平和堂財団芸術奨励賞を受賞。これまで世界10カ国以上の現代音楽祭でソリストとして招待演奏するなど欧米各地で高い評価を得る。帰国後、(財)地域創造の公共ホール音楽活性化事業協力アーティストとして、全国各地でのアウトリーチ活動を行う。若手音楽家育成プログラム・創造型こども音楽プログラムなどのプロデュース、CD制作「Dear」「空想〜千夜一夜」などクオリティの高さが話題と称賛を呼んでいる。現在は滋賀県立石山高等学校音楽科、相愛大学・同大学院非常勤講師、同志社女子大学嘱託講師を務めるなど、多方面で活躍。パール・アダムモニターアーティスト。

公式ホームページ <http://www.yasukomiyamoto.com/>

有馬純寿

1965年生まれ。エレクトロニクスやコンピュータを用いた音響表現を中心に、ジャンルを横断する活動を展開。ソリストや室内アンサンブルのメンバーとして「サントリーホール サマーフェスティバル」「コンポージアム」などの現代音楽祭をはじめ数多くの演奏会で電子音響の演奏や音響技術を手がけ高い評価を得ている。第63回芸術選奨文部科学大臣新人賞芸術振興部門を受賞。2012年より国内外の現代音楽シーンで活躍する演奏家たちと現代音楽アンサンブル「東京現音計画」をスタート、その第1回公演が第13回佐治敬三賞を受賞した。東京シンフォニエッタメンバー。現代音楽作品の電子音響の演奏以外では、一柳慧、湯浅譲二、杉山洋一をはじめとする作曲家との共同作業や、スガダイロー、石若駿などジャズミュージシャンや、国内外の実験的音楽家とのセッションも積極的に行っている。また、会田誠、小沢剛らとの「昭和40年会」をはじめ美術家とのコラボレーションも多く、「瀬戸内国際芸術祭2013、2016」に参加し、香川県木島にてインスタレーションの展示やワークショップなどを行ったほか、2019年10月にはソウルにて韓国の同世代の美術家たちとのプロジェクト「50|50」を行った。現在、帝塚山学院大学リベラルアーツ学准教授。京都市立芸術大学非常勤講師。

■ TRANCE MUSIC FESTIVAL 2021 ここまでの公演


**TOYONAKA
ARTS TRIBE #4
TRANCE
MUSIC FESTIVAL 2021
- SENSATIONS -**

時間のTRANCE - NINETY MINUTES -

レガシーのTRANCE - KONTAKTE -

クラブミュージックのTRANCE - トランス・クラブII -

時間のTRANCE - NINETY MINUTES -

開催日時 2021年2月20日（土）開場14:30／開演15:00

会場 豊中市立文化芸術センター展示室

出演 黒田亜樹（ピアノ）、大石将紀（サクソ）
有馬純寿（エレクトロニクス）

演奏曲目 G.クラム：アイネ・クライネ・ミッテルナハトムジークより
ヤコブTV：この無常の喜びが終わらないように
S.ライヒ：エレクトリック・カウンターポイント（サクソフォン版）
佐藤聡明：リタニア
足立智美：「サクソフォン族の台頭」アルト・サクソフォンとビデオのための2020 ※1
G.フィットキン：ハード・フェアリー
今井慎太郎：動きの計象
杉山洋一：五重奏（アフリカからの最後のインタビュー）[トリオ版]
坂東裕大×Pause Catti：逆に、for saxophone, piano and electronics ※2
※1 大石将紀委嘱作品世界初演 ※2 豊中市立文化芸術センター 委嘱作品世界初演

**レガシーのTRANCE - KONTAKTE -**

開催日時 2021年3月6日（土）開場15:30／開演16:00

会場 豊中市立文化芸術センター小ホール

出演 中川賢一（ピアノ）、宮本妥子（マリンバ・打楽器）
有馬純寿（エレクトロニクス）

演奏曲目 S.ライヒ：フォー・オルガンズ
K.シュトックハウゼン：KONTAKUTE

サントリー芸術財団推薦コンサート

**クラブミュージックのTRANCE - トランス・クラブII -**

開催日時 2021年3月6日（土）開場17:30／開演18:00

会場 豊中市立文化芸術センター展示室

出演 Loe (DJ)、ミヶ尻敬悟 (DJ)、和泉希洋志 (ライブ)
映像 塚原悠也

そして、TRACE MUSIC FESTIVAL 2021→2022

お問い合わせ先

豊中市立文化芸術センター（豊中市市民ホール等指定管理者）

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町3-7-2

TEL：06-6864-3901（火～日 9:00～20:00 月曜休館）

<http://www.toyonaka-hall.jp/>

公演内容・取材について

e-mail: inoue@toyonaka-hall.jp

担当：井上

・電車でお越しの場合

阪急宝塚線「曾根」駅より東へ約300メートル 徒歩約5分

・駐車場

地下（有料）75台

初めの30分は無料。その後30分毎100円。



5.チラシ

画像使用についての注意

- ・このプレスリリースに掲載されている画像データを広報用にお貸し出いたします。末尾の「申込書」をご使用ください。
- ・画像を媒体掲載される際には、「申込書」に画像とともに送りするクレジット等を、必ずご記載願います。
- ・画像データ使用は、公演終了までとさせていただきます。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。
- ・基本情報・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で担当者までメールまたはFAXにてお送りください。
- ・本公演に関する記事をご掲載いただきました際には、掲載出版物または録画メディアを担当者に送付願います。
- ・インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。

広報画像申込書

トヨナカ アーツ トライブ #4 トランス ミュージック フェスティバル 2021→2022 ー センセーションズ ー

TRANCE MUSIC FESTIVAL 2021→2022 -SENSATIONS-
ピアノとパーカッションのTRANCE - in Search Of the Lost ()-

2022年1月21日(金) 19:00開演(18:30 開場)

※ご希望の画像の番号に○をつけてください。

1 中川賢一&有馬純寿&宮本妥子

2 中川賢一 ©Shuhei NEZU

3 宮本妥子

4 有馬純寿 撮影：松陰浩之

5 チラシ

P.5 に掲載している写真がご希望の方は個別に対応させていただきますのでお問い合わせ下さい。

※媒体情報についてお知らせください（全てご記入願います）。

媒体名：

掲載・放送予定日：

貴社名：

部署名・ご担当者名：

所在地： 〒

Email：

TEL：

FAX：